

淀川水運と川御座船シンポジウム



川御座船：小林豊作（「お船がきた日」より）



朝鮮通信使船 復元：韓国国立海洋遺産研究所

2025年5月、韓国で復元された江戸時代の朝鮮通信使船が、釜山より大阪・関西万博開催中の大阪へ来訪しました。はるばる来日した隣国の使節団に「水都大阪」はどのように映ったのでしょうか。さらに当会では江戸時代、通信使が豪華絢爛な川御座船と呼ばれる川船で淀川を大阪から京都まで往来したことにちなみ、万博開幕に合わせ完成した淀川大堰閘門を通り、川船で京都・伏見までご一行をお連れしました。この日韓の「川御座船の旅」についてご紹介するとともに今後の淀川水運を考えるため、下記シンポジウムを開催します。

日時：2026年2月19日（木）16時～18時
場所：北御堂ホール
主催：水都大阪を考える会（水都の会）
協力：本願寺津村別院（北御堂）



○次第

司会 藤本英子 京都市立芸術大学名誉教授
活動報告 藤井 薫 水都大阪を考える会（朝鮮通信使川御座船を考える会）代表
「令和の朝鮮通信使と淀川川御座船クルーズ」

講演 大澤研一 大阪歴史博物館館長
「朝鮮通信使にとっての淀川」

講演 溝畑 宏 （公財）大阪観光局理事長
「淀川水運観光の可能性」

シンポジウム 「淀川水運と水都大阪の過去・現在・未来」

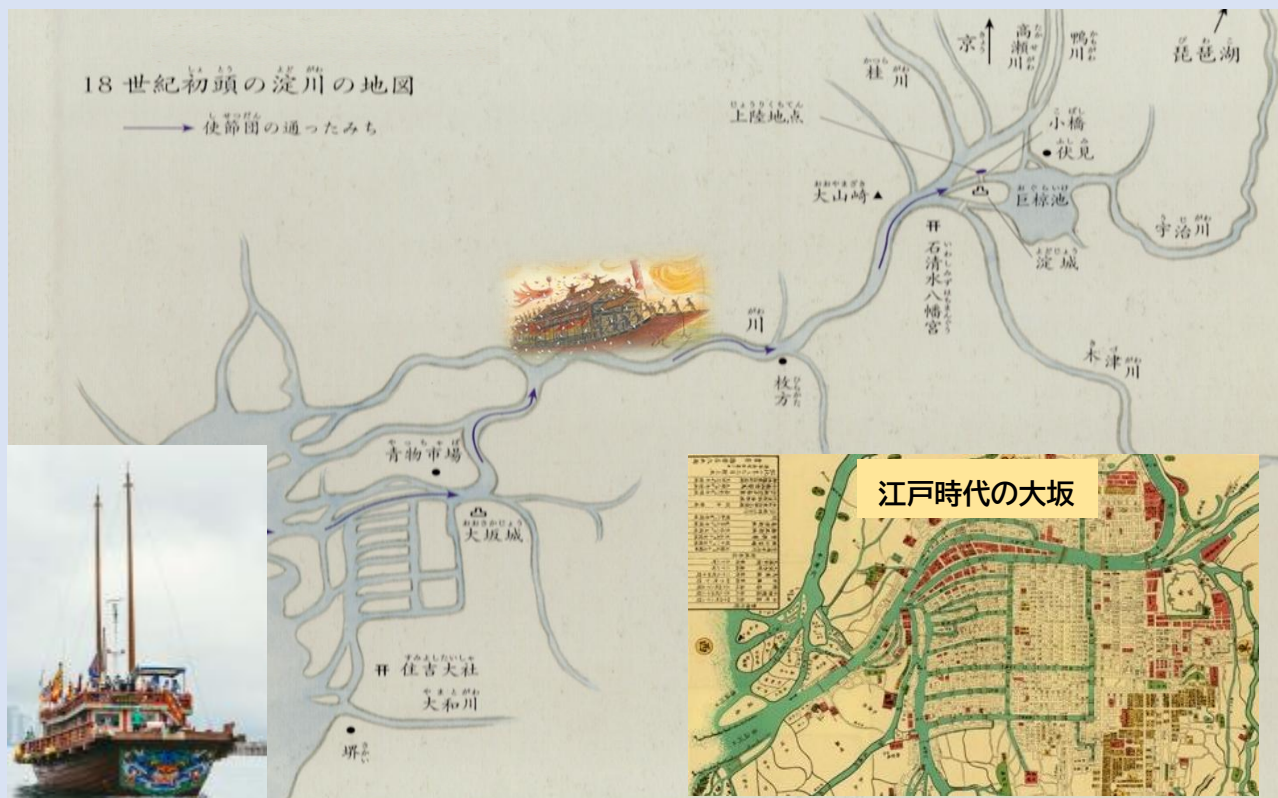
パネラー：溝畑宏、大澤研一、藤井薫 コーディネーター：藤本英子

会費 無 料（事前申込お願いします）[定員：100名]

【申込】 「風アートプランニング」E-mail kaze.artplanning512@gmail.com

担当：イズイ（Mobile:080-8516-8391）

特別ビデオメッセージ！
韓国国立海洋遺産研究所
李恩硯 所長



朝鮮通信使船

地図・絵協力:岩波書店

朝鮮通信使とは

朝鮮通信使は、江戸時代、12回にわたり朝鮮国から日本に派遣された外交使節団です。政府高官のみならず、文人、画家、楽団など総勢500名もの大規模な使節が、ソウルから江戸を往復しました。朝鮮通信使はソウルから陸路釜山へ、釜山からは6隻の外洋船（朝鮮通信使船）に乗り、対馬・北九州を経て瀬戸内海を通り、大阪に到達。当時幕府の直轄都市だった大阪は豊かで町人文化が花開く、日本を代表する都市でした。

通信使は片道5日前後大阪に滞在しますが、その間、盛大な歓迎を受けるとともに、賑わう町の様子に驚き、宿所では文人たちと濃密な交流が繰り返されました。通信使は、その後、淀川を川御座船という豪華絢爛な川船に乗り、150隻もの船団を組み、京都を目指します。2017年、朝鮮通信使はその歴史的意義が認められ「朝鮮通信使に関する記録」（111件333点）が「ユネスコ世界記憶遺産（世界の記憶）」に登録されました。

●朝鮮通信使船復元船（朝鮮王朝時代の図面をもとに忠実に復元された木造船）

2018年韓国木浦にて、韓国国立海洋遺産研究所が建造。149トン級で、全長27.07m、幅9.54m、喫水3.19m、530馬力のエンジン2基と帆2台を備え、平均9ノット（時速16.6km）で航海。海に浮かぶ博物館としても使用。大阪・関西万博開催時に来日。大阪では水都の会が受入れに当たり、歓迎会等を開催した。

●川御座船

江戸時代、幕府や諸侯が河川で使用した屋形船。屋形は二階造りで華麗をきわめ、中には屋形全体に絵画彫刻による装飾があり、檜皮葺（ひわだぶき）の屋根に鯢（しゃちほこ）をつけているものもあった。

このリーフレットは以下の団体の助成を受けて作成しています
公益財団法人河川財団、公益財団法人芳泉文化財団、一般社団法人近畿建設協会

